

Y06a 星空と“Awe”の関係性についての予備調査とその考察

縣秀彦(国立天文台), 高橋真理子(星つむぎの村), KAGAYA(KAGAYA スタジオ), 中島静(国立天文台)

「人は何故、星空を見上げるのか?」, 「星空を見ることは社会とどうつながるのか?」 これらの問いに対して諸説あるものの学術的なアプローチが十分になされてきたとは言えない。一方、心理学及び脳科学では、星空を見ること等の驚きの体験は、Awe や Wonder という感情を引き起こし、向社会的な行動を引き起こす場合があると予想している(例えば, Piff et.al.,2015)。本研究では星空を眺めた際の行動変容を理解する上での予備調査として、2021年春にCOVID-19 感染症対策に追われる医療機関に対し、A1サイズの両面印刷の星空ポスターを全国36病院へ計78枚配布し、どのような反応が見られるか予備調査を実施した。

その結果、(1) 星空ポスターを見て、医療従事者の方々が癒されるケースがあった。(2) 星空ポスターを見て、患者の家族がポジティブな刺激を受けるケースがあった。さらに(3) この活動を知り、地域で医療従事者への支援活動を開始した天文教育関係者がいた。ただし、これらの行動変容がAweによるものなのかは正確には判別できなかった。このため、2023年1月より同ポスターに簡易的なアンケートフォームへ誘導するQRコードを付加し、病院以外も加え約150枚配布した。調査母数(n=279; 2023年6月現在)はポスター掲示を見て自ら回答した方々であり、潜伏変数等の認知バイアスが存在する可能性が残るものの、6割がポスターを見て「気持ちが癒された」と回答した。また、「ポジティブな気持ちになった」と回答したのは14%であった。広大な海、沈む夕日、山頂からの眺め等でも同様の感情を生むケースがあることを確認した。講演では本調査の詳細について報告する。